

ヒエロニムス・ボスと視線の遊戯

— 幾何学的シンボリズムの解説 —

神原 正明

倉敷芸術科学大学芸術学部

(2019年10月1日 受理)

ヒエロニムス・ボスの「快樂の園」は、1500年前後にオランダ地方で制作された祭壇画形式をとる油彩画であり、現在はスペインのプラド美術館に所蔵される。左翼パネルにエデンの園、中央は快樂の園、右翼パネルは地獄が描かれていて、「最後の審判」図の形式をもつ。裸体の氾濫する中央パネルはことにユニークで謎めいており、様々な解釈が提案されている。東洋の曼荼羅図に似て、神秘宗教の奥義を伝えているようにも見える。天国と地獄を描いた左右の対比は、キリスト教だけでなく仏教的世界観をも組み込んで、エキゾチックな宇宙観へと展開している。西欧世界から見れば新大陸が発見された時代に描かれ、世界の拡大と東西の交流がめざされたエキゾティシズムを背景としている。それは博物学的な物質文化への興味が加速化する時代でもあって、パノラマ的な視野は中心を喪失している。しかし一見すると混沌として見える世界に、一定の秩序が隠し込まれていることは、眺め続けることでゆっくりと見え出してくる [図1]¹。

私が最初に「快樂の園」に隠されたシンボリズムを読み取ったのは、中央パネル中央の池にいる裸婦の人数からだった。そこでは12人、7人、4人という占星術に関わる数字が浮上する。



[図1]



[図 1a]

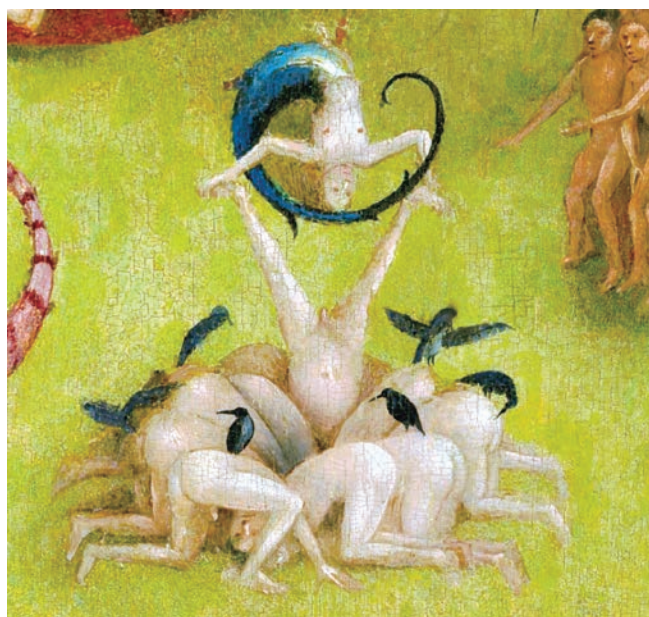
このグループの数を最初に指摘したのは1992年のことだが、その後総数の33人についても問題にして考察をした²。合わせて数字のシンボリズムだけではなく、文字のシンボリズムも隠し込まれていることに気づく³。最初に目を付けたのは、中央パネルに二人いる逆立ちをした男のY字になった足である。一方は池に頭から突っ込んでいて、植物人間を演じている [図2]。足の開きにはっきりとY字が読み取れる。他方は右背景にいてアクロバティックに逆立ちをしている [図3]。そして両者の構図上の位置関係に、何らかの法則があるのではという着想から観察を繰り返し、いくつかの発見に至った。

ともに男性のシンボルが描きこまれているが、後者の方は男の足の上で、マーメイドがアクロバットを演じている。何気なく両者の脚の付根を直線で結んで延長すると、地獄のナイフのマークにぶつかることを発見する [図4]。この指摘を最初に公表したのは、2012年ヴィジュアル選書だった⁴。

この一致は偶然の可能性もあり、これが成立するためには現在ある祭壇画のフレームが制作当



[図 2]



[図 3]



【図 4】

時のものであることを前提とするが、その後いくつかパネルをまたいで同様な発見が加わることで、逆に現在のフレームが当初の位置関係にあったことも確認できるのではないかと思う。Y字は「自由意志」のシンボルとして知られるもので、「ヘラクレスの選択」の主題として表現されてきたものだ。ギリシャ文字イプシロンYがここでは、アルファAとオメガΩに組み合わせられる。

ナイフに刻印された記号【図5】はこれまで、BやMなど様々な解釈が見られるが、私にはこれがオメガ（大文字Ω小文字ω）の組み合わせ文字のように見える。アルファははじまり、オメ



【図 5】



【図 6】



[図 7]



[図 8]

がは終わりを意味する。「ヨハネ黙示録」(1章8節ほか)に、主の言葉として「私はアルファであり、オメガである」と出てくる。AとΩの組み合わせは、ここでも問題にされているようで、アルファは中央パネルのA字をなぞる赤いテントに置き換えられているように見える [図6]。よく見るとテントの中には足しか見えないが、5本を数え、3人の人物が入っていることがわかる。

一方、中央パネルの構図上の中心には「卵」が位置する。それもまた始まりを意味するものだ。騎馬行列をする男の頭上に置かれるが、人の頭よりははるかに大きい。にもかかわらず一見するとそれが中心に位置することは、目立って強調されているわけではなく、隠し込まれているという印象が強い。加えてよく見ると男の頭上でバランスを取っているのではなく、地面に置かれているのだということが、影の描きこみからわかってくる [図7]⁵。不安定ではなく地にしっかりと定着しているのである。この完全な卵は錬金術的象徴と解釈される場合が多いが、画面に描かれた割れた卵との対比を見つける必要があるかもしれない。一つは地獄の中心にいる、いわゆる「木男」 [図8] であるが、卵が割れたような胴体をもっている。

もう一つは中央パネルの後景で水際にある巨大な卵で、大勢がこの割れ目から入り込もうとしている [図9]。そして構図的にみると赤いテントのAの中心点と、構図上の中心である完全な卵を結んで延長すると、この割れた卵の裂け目につく [図10]。

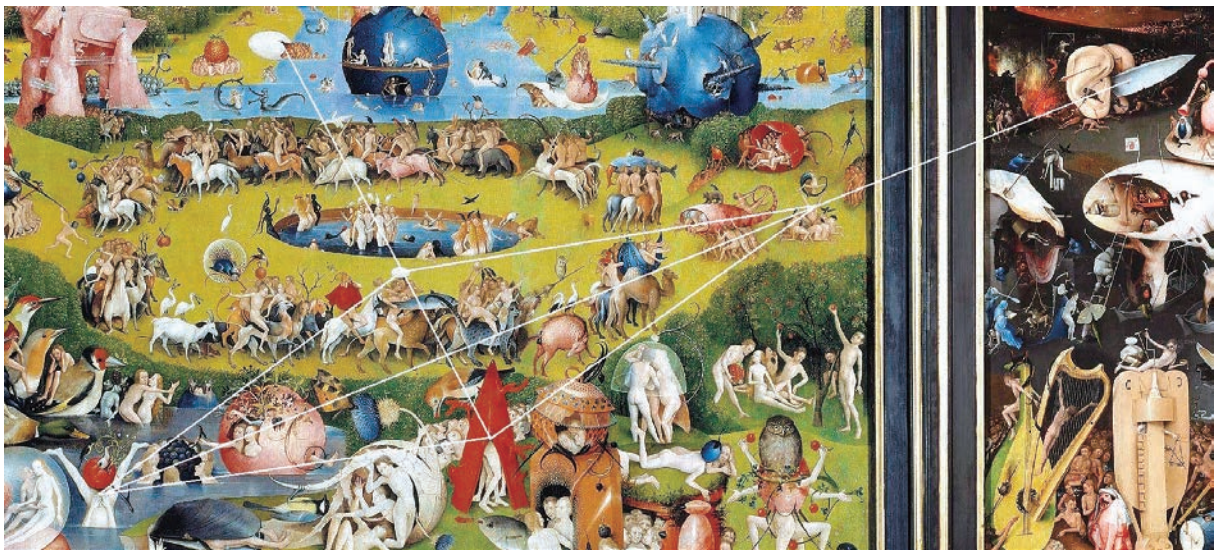
こうして作図された点を見直してみると、星座を結んで位置を確定する天文図のように見え出してくる [図11]。そこには古代以来の占星術に由来する神秘主義が認められる。A字の付根と完全な卵を結ぶ直線と、二つのY字を結ぶ直線は、それぞれが互いを二等分している。はじまりであるアルファ (A) から、「選択」を意味するイプシロン (Y) を介して、終末のオメガ (Ω) に至るというのが、この構図から読み取れる解釈である。こうしたピタゴラス的神秘思想は、さらに続く。



[図 9]



[図 10]



[図 11]

地獄にある2本のナイフのマークを結ぶ直線は、「木男」の左目を通過していて、木男の額のあたりで二分されている [図 12]。木男が終末の意味を共有することが暗示される。次に木男の左右の目を通過し、左翼パネル「エデンの園」の中央にある円盤のフクロウの両目を結んでみると、その直線上には多くの重要な図像が隠し込まれていることに気づく [図 13]。直線は中央パネルの池の中心点を通り、左翼パネルの池の白鳥やダブルイメージとなった横顔の鼻先を通過する。さらに中央パネルの鳥の群れの上端にいるうしろ向きの男をも横切るが、この時そのポーズが十字架にかかるキリストの磔刑のそれであることに気づくのである [図 14]。



[図 12]



[図 13]

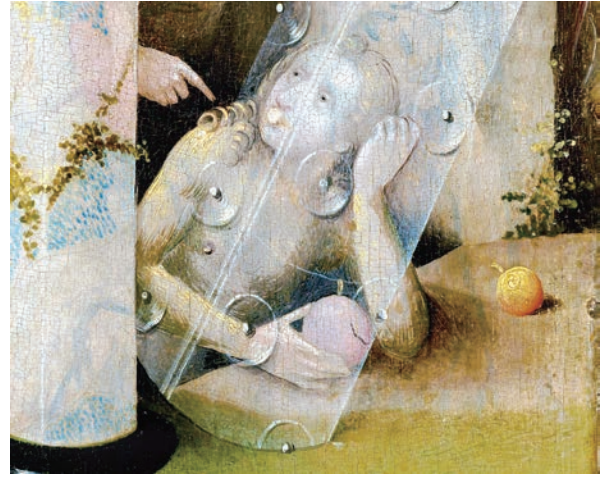


[図 14]

左翼パネルでアダムがイヴを見つめる目を延長すると、地獄の木男の体内で赤ら顔をして頬杖をつく男に行きつく。シャルル・ド・トルネはこの人物に目をつけてボスの自画像だと語った



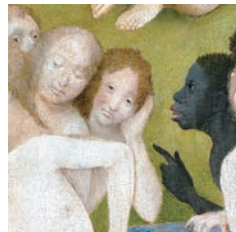
[図 15a]



[図 15b]



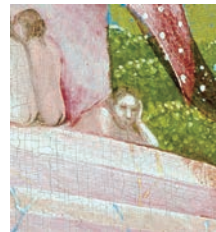
[図 15c]



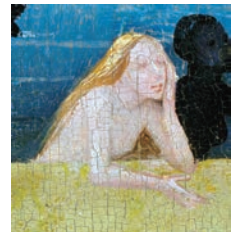
[図 15d]



[図 15e]



[図 15f]



[図 15g]

ことがある。頬杖をつくポーズは、1500年前後の絵画ではメランコリー（憂鬱質）を意味して、芸術家にふさわしい四気質として定着した。デューラーとも歩調を合わせて、ボスも「快樂の園」で随所にこのポーズを埋め込んでいる [図 15a-g]。

この直線は中央パネルでは、構図の中心にある卵と赤いテントの輪郭をなすA字の中心を結ぶ線を二等分する。同時にそれは先のふたつのY字を結ぶ直線の交点でもある [図 16]。

この線上には左端では大きなフクロウの目とそれに抱きつく男の目が位置し、さらに女の手首を握り正面を向く男 [図 17a] の局部が位置している。この男が女の腕を握る姿は特徴的で、エデンの園で神がイヴの腕を取るポーズ [図 17b] を繰り返したものだ。医師が患者の脈を測るようなしぐさだが、イヴの誕生を伝えるものであり、アダムがイヴに向ける驚きのまなざしに連動している。この手の握りもボスは繰り返し、メランコリーのポーズと同様、画面に埋め込んでい



[図 16]

る。男が背後から手を回して女の手首を握る姿 [図 17d] は謎めている。

腰を引いたこの男の局部と中央パネルの中心軸をはさんで対称の位置に、ヴェールをかぶった妊婦の局部がある。この2点と中心の卵を結ぶと二等辺三角形ができる。これは生殖のシンボリズムをなすが、加えて卵をまっすぐに下ろすと中央パネル下端で逆立ちをする女の局部にぶつかる。ここにも逆さになった二等辺三角形が見つかる。さらに卵を上へのぼすと青い球体の丸い穴



[図 17a]



[図 17b]



[図 17c]



[図 17d]



[図 18]

に潜んで女の秘部に手を伸ばすグループがいて、これも二等辺三角形の頂点をなしている [図 18]。卵から発した直線が、左では男が女を抱き寄せる姿を、右では腹のふくらみを示す女となって描き分けられている。

この両者のグループは重要で、ともにトリオで成立している。左側には抱き合う男女を樽の中から両手をあげて見つめる第三者がいる [図 19b]。右側では女は妊婦のようで遠方を見つめるこの男女の間に割り込むように第三者が加えられている [図 19c]。卵を通る垂直線上でもう一人の男の生殖器にぶつかるが、こちらも複雑なポーズのトリオが、棘のある丸くて白い果実の空洞に入り込んでいる [図 19d]。ここでも手首を握る同じポーズが反復されている。この白い球体は卵を中心として、背景にあるフラスコ型の青い球体と対称の位置にある。中央パネルにはトリオになったグループが繰り返されるが、多くはエデンの園での神（キリスト）・アダム・イヴを模して、男2名に女1名の組み合わせになっている [図 19a]。男女のペアにもう一人の男が加わることで、三角関係をなして空間が動揺する。このエネルギーが画面に充満しているように見える。いくつかのトリオをフレーミングしておく [図 19a-1]。第三者は足だけ [図 19e]、顔だけ [図 19f]、あるいは尻だけ [図 19g] の場合もある。



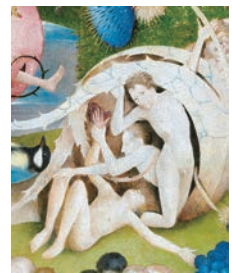
[図 19a]



[図 19b]



[図 19c]



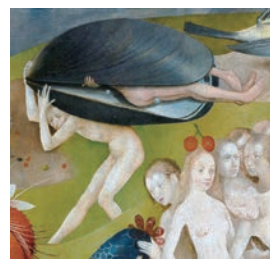
[図 19d]



[図 19e]



[図 19f]



[図 19g]



[図 19h]



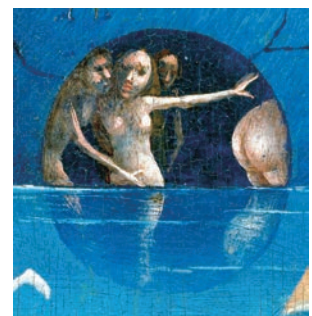
[図 19i]



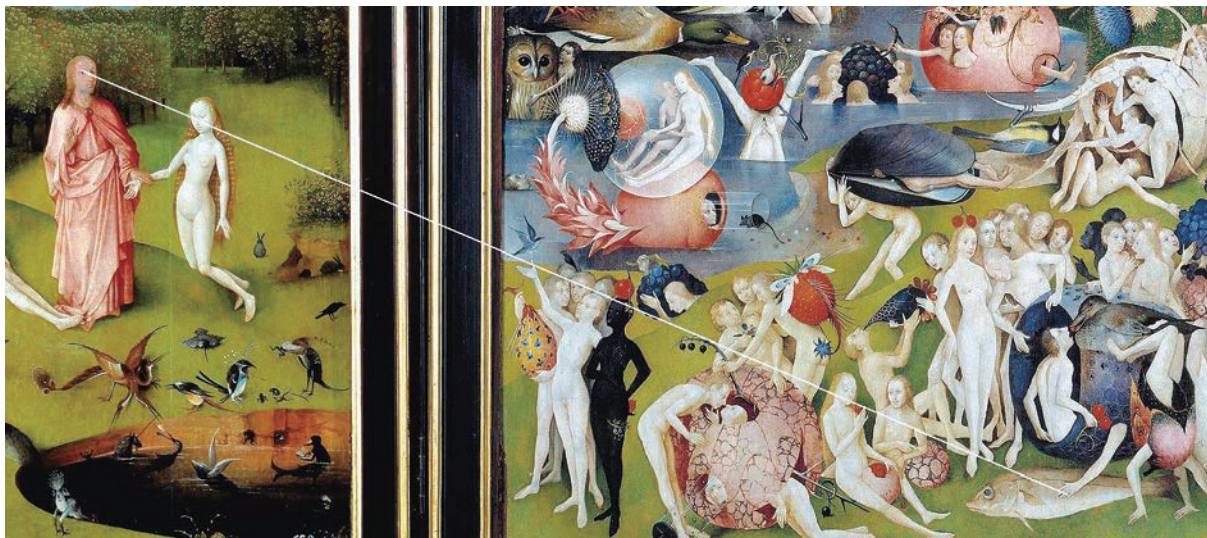
[図 19j]



[図 19k]



[図 19l]



[図 20]

一方、エデンの園で神がイヴを見つめる視線を延長してみる [図 20]。中央パネル左端で右手を神に向けて差し伸べる男の親指を切り取って、その向こうにいる女が手にする赤い果実を通過し、打ち上げられた魚に触れようとする手の指先にたどりつく。魚はキリストのシンボリックイメージとして知られる。それを創造主に置き換えたキリストと結び中間には正面を見据える男の目がある [図 21b]。若い神の姿をとるキリストも正面を見ている [図 21a]。

正面を見つめる人物は、群像の場合、画家が自画像として埋め込む場合が少なくない。しかしここでボスは繰り返して正面に向ける視線を組み込むことで、謎めいた空間構成を楽しみ、同時に鑑賞者を事件に参加させようとする。鑑賞者の目はこれらの人物像に一瞬、停止して自身の立ち位置を確認することになる。それは愚者を描いた絵画で、人数が文字で書き込まれているのに、いくら数えても一人少ないのと似ている。たとえば愚者の一人が「私たちは5人だ」というセリフを語るのだが、4人しか人物は描かれてはいない。見ているお前も含めてだという意味に気づくと、作品はより臨場感を増す。鑑賞者に話しかけるゴダールの映画「勝手にしやがれ」に似ている。ここでも「快樂の園」での正面像を集めてみる [図 21a-1]。

卵とイヴの左足の踵を結ぶ直線の中間の位置にY字の男の左足の踵がある。この線上には女の左手首を握りこちらを見る男の局所と、握られた手首が位置する [図 22]。

この男女を内包する二等辺三角形をつくと、二人を見つめる樽の中から顔と手を出す男の目を頂点にして、Y字の男の局部とAとQを組み合わせたオットセイを思わせる動物の上を向いた喉仏を結ぶ線を底辺とする形が浮き上がる [図 23]。そしてこの底辺の線上には鳥のくちばしがくわえる果実に口をのぼす男の、上を向いた喉が位置している。なぜ「喉仏」を問題にするかというと、西洋語では喉仏のことを「アダムのリンゴ」と言い、樂園伝説に由来するもので、アダムのY字の選択と深くかかわってくるからである⁶。

この底辺を延長すると、男と対面するネズミにぶつかるが、このネズミとエデンの園の中心に



[図 21a]



[図 21b]



[図 21c]



[図 21d]



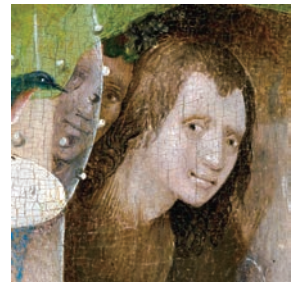
[図 21e]



[図 21f]



[図 21g]



[図 21h]



[図 21i]



[図 21j]



[図 21k]



[図 21l]



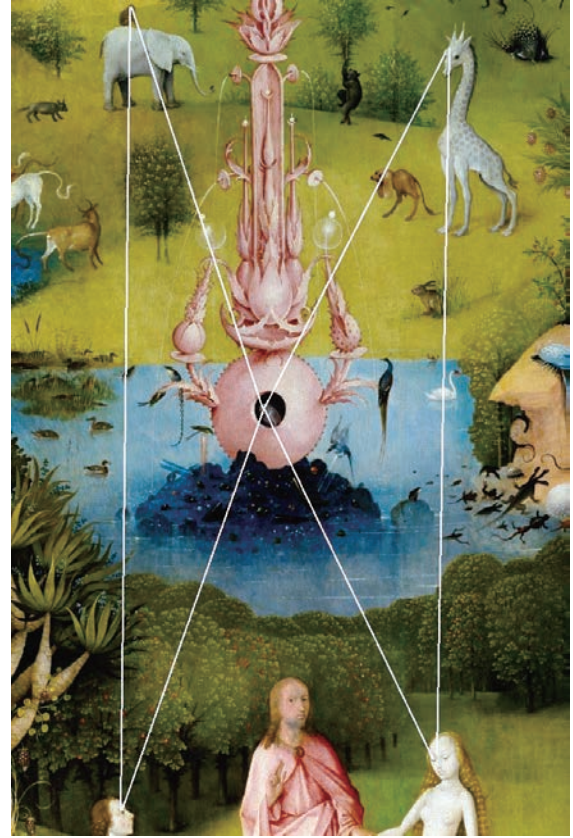
[図 22]

いるフクロウの目を結んで延長すると、池の水に浸す一角獣の角の先につかる [図 24]。伝説によれば、角をつけることで一角獣は水を浄化させる力をもつとされている。

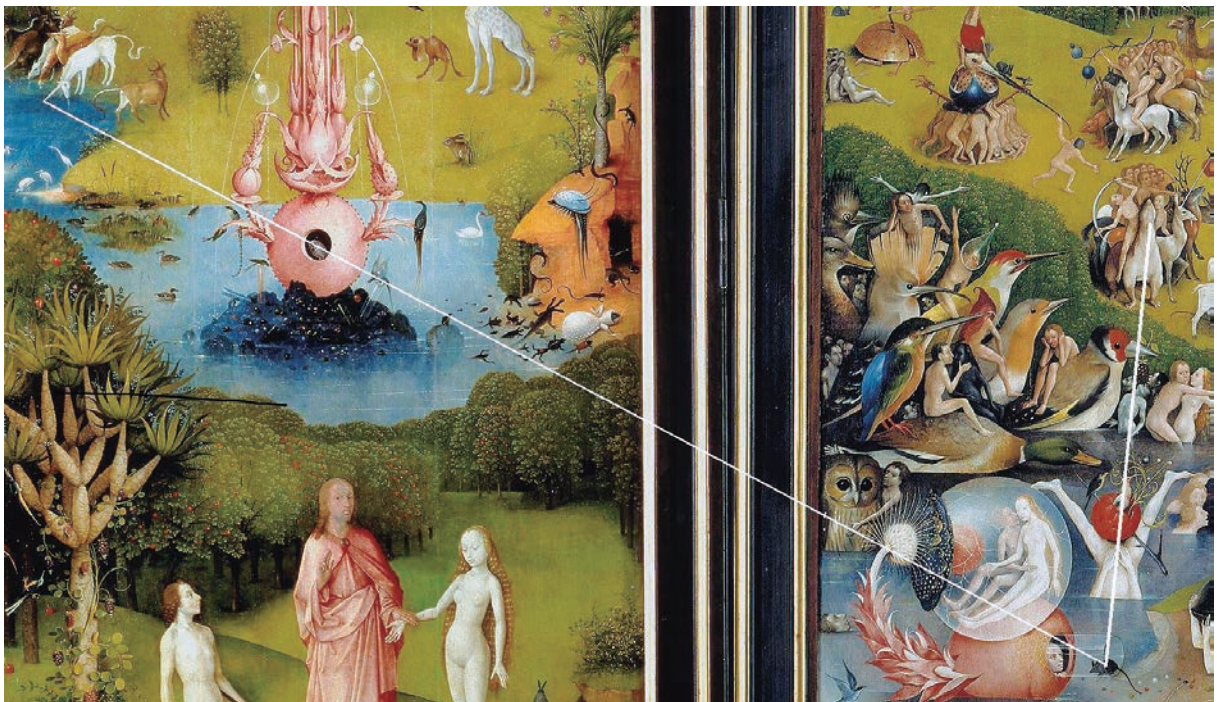
次にこのフクロウの目を中心に二等辺三角形をつくってみる [図 25]。一つはイヴとキリンの



[図 23]



[図 25]



[図 24]



[図 26]



[図 26a]

それぞれの右目を結ぶとできる三角形、もう一つはアダムとゾウの背にのるサルを目を結ぶ三角形である。イヴとキリンはともに伏し目を共有し、両者の目を結ぶ線上には白鳥が位置する。フクロウの目はまた、エデンの園の地面に転がる2個のリンゴを結ぶ線と一直線上にある [図 26]。よく見るとリンゴにはかじった形跡が見られる [図 26a]。

中央パネル右下端にも色あせたリンゴが2個あり、それぞれの上端を結ぶと、直線は逆立ちをするふたりの人物の指先をなぞっていく [図 27]。これらの指先が興味を引くのは、親指を立てて、とても逆立ちを支えるとは思えないような描写であることだ。女の投げ出した方のリンゴは、すでにかじられているように見える [図 28]。

またエデンの園のアダムと中央パネルで女が手にする色あせたリンゴを結ぶ線上には、先述した逆立ちをする女の局所やイチゴにかじりつく男の左目が位置している [図 29]⁷。エデンの園に近い部分では、黒人女の頭上のリンゴの先端と、その隣で楽園に手を差し伸べる男の指先をかすめている。ここで二つのリンゴが描かれている点は重要である。禁断の果実とされるリンゴは、



[図 27]



[図 28]

ボスの場合、エデンの園で目立った存在ではない。

右翼と中央パネルを結ぶ視線の遊戯は、地獄の右下の尼僧姿の豚から発する [図 30]。

豚の目と、この豚とパラレルな関係にある中央パネルのヴェールをかぶった妊婦の目を結ぶ延長線は池の中心点を斜めに通過して、背景の塔の柱の陰から姿をのぞかせる女の目にたどり着く



[図 29]



[図 30]



[図 31]



[図 32]

[図 31]。途中に池の縁に頬杖をついた女が地獄の豚に視線を投げる [図 15g]。柱の女は微細だが、気になる存在感を宿している。一方豚と妊婦の両局部を結び、延長すると卵にぶつかり、その先に黒人女の頭部が位置する。前者の線上には地獄の酒場女の額があり、後者の線上にはその女が手にする壺とろうそくが位置している。そしてこの直線を際立てるために地獄のウサギのもつ槍がこれと平行に描かれている [図 32]。

クジャクを頭に頂く黒人女性 [図 33a] について、私は「シバの女王」伝説が下敷きにされていると見ている⁸。この時代、アフリカから多くの黒人が奴隷としてヨーロッパに入り込んだ。デューラーは観察にもとづいて黒人の肖像を描いたが、ボスもまた黒人のモデルを用いて見事なマジの礼拝図を描いた。そこでは3人の王のうち一番若い王を黒人にあてている。当時の慣例に倣うものではあるが、凛々しい黒人王の姿を描き出している。シバの女王はソロモン王の妻として伝えられるが、独立した自立心に満ちた存在であり、ファムファタールの美女としてもやがて定着することになる。「快樂の園」でもクジャクを冠して重要な位置を占めている。この黒人女性に目を向ける3つの視線がある。一つはエデンの園のアダムである [図 33]。

目を見開いた驚きの表情は、生まれたばかりのイヴに向けられているように見えるが、実際はイヴよりも少し上方に向かっているようだ。目の先にはシバの女王がいて、その掲げるリングと



[図 33]



[図 33a]



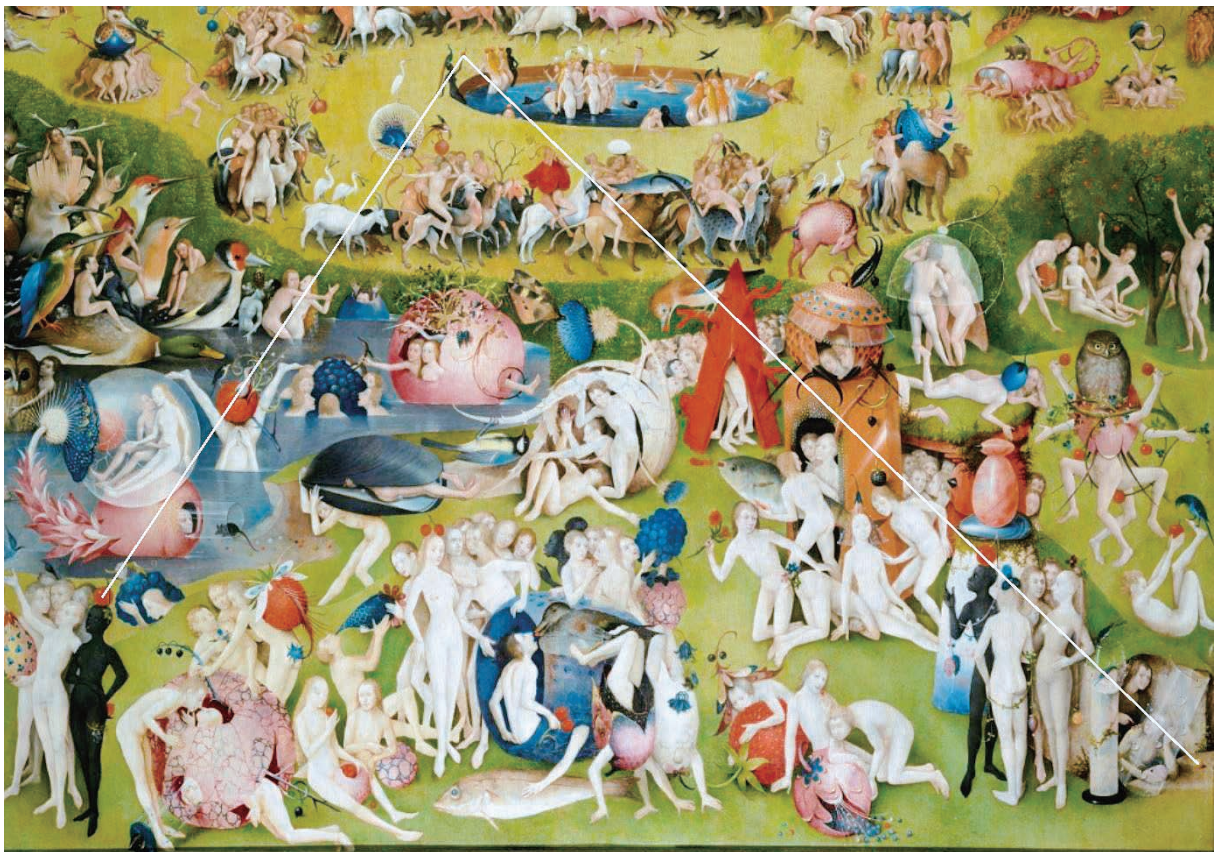
[図 33b]



[図 33c]

アダムの目を直線で結んでみる。途中には鳥の群れがいて、同じくシバの女王に視線を向けていることがわかる。鳥の中には珍しくヤツガシラが描きこまれるが、これはシバの女王伝説で、ソロモン王からのメッセンジャーとして登場する鳥である。シバの女王の変身譚に出てくるガチョウもそこにはいる [図 33c]。さらにアダムの後方に直線を延ばすと、ぴったりと地面に散らばった二つのリングのうちの一方に重なっている [図 33b]。二つのリングが象徴するものは、一方はイヴが悪魔の誘惑を受け入れて最初に食ったもの、他方はイヴが勧めてアダムが口にするものである。何気なく置かれたリングではあるが、周到な配置が考えられていたことが読み取れる。ここで重要なのはアダムとシバの女王のポーズが平行になっている点で、ともに右手を大地に置いている。

もう一つの視線は中央パネルで頭にリングをのせた黒人女の視線である [図 34]。右翼の地獄に近い側にいるが、振り返ってシバの女王のいる方向に手を指し出して、何かを語ろうとしているようだ。このリングをシバの女王のもつリングと結んでみると、やはりその延長上に地面に捨てられたリングにたどりつく。洞穴の入り口で頬杖をつく女の両目を突っ切って、リングに到達するのだ。リングを頭にのせた黒人女はもう一人いる。画面左側、エデンの園に目を向けるグループの一員だが、こちらは頭上のリングとは別に、もう一つ別のリングを手に隠し持っている [図 35a]。アダムにリングを手渡すイヴの図像によく見かけるポーズである。ここでも頭上のリングをシバの女王のリングと直線で結ぶと、途中には先述したY字のポーズをとる男の左足を切



[図 34]



【図 35a】



【図 35b】

断し、抱き合おうとする男女の身体を、直線は二つに引き裂いている。腰を引いた男の背中中の角度はこの直線と平行線を描いて、リンゴとシバの女王の結びつきを強調している。

最後にシバの女王との関連でもう一つ指摘しておく。パラレルになった地獄の豚【図 36a】と中央パネルの妊婦【図 36b】の両方の局部を結ぶと、その延長上にシバの女王にたどり着く【図 30】と書いたが、実はこの直線上に盲目のダンスを演じる手足【図 36c】が登場する。この不思議な舞踊については、しばしばシヴァ神と結び付けられて解釈されてきた。視覚的類似を越える考察はなされていないが、ギメ美術館をはじめ西洋圏に現存する彫像の作例【図 36d】に加えて、私はここにボスが多用してきた語呂合わせが潜んでいるのではないかと考えている⁹。つまりシバの女王とシヴァ神の踊りとの並行関係であるが、この図像に潜む東洋の曼荼羅を思わせる神秘主義と合わせて、今後の課題としておきたい。



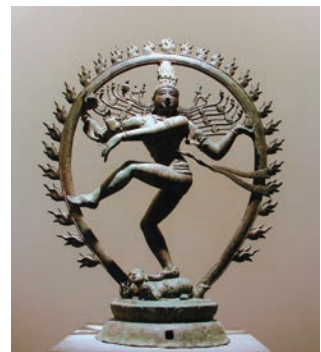
【図 36a】



【図 36b】



【図 36c】



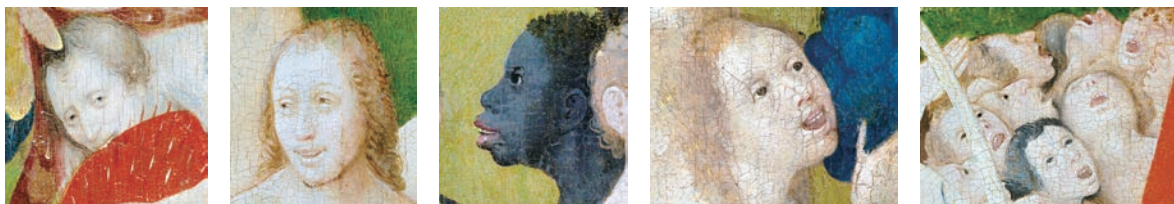
【図 36d】

注

* 本文の図版については、ボス・プロジェクトの提供する以下の Web サイトから引用された。この細部撮影の提供と公開によって、今後のボス研究は飛躍的に進展するだろう。ここに記して感謝の意を表する。

http://boschproject.org/#/artworks/The_Garden_of_Earthly_Delights

- 1 拙著『快樂の園を読む：ヒエロニムス・ボスの図像学』講談社学術文庫，2017年。「視線の遊戯」の図示については、本書の折込図版として掲載した。大学ホームページにも再録している。<http://www.kusa.ac.jp/~kambara/bosgarden2.jpg>
- 2 拙稿「ヒエロニムス・ボス」(『名画への旅10 美はアルプスを越えて－北方ルネサンス2』)所収，講談社，1992年。拙稿「ヒエロニムス・ボスと数字のシンボリズム2」倉敷芸術科学大学紀要21，2016年，pp.3-14.
- 3 拙稿「ヒエロニムス・ボスとY字のシンボリズム」美学205号，美学会誌，2001年，pp.28-41。拙稿「ヒエロニムス・ボスと文字のシンボリズム－隠されたピタゴラスのY字，AとΩ－」倉敷芸術科学大学紀要22，2017年，pp.3-14.
- 4 拙著『「快樂の園」－ボスが描いた天国と地獄』ビジュアル選書，新人物往来社，2012年。
- 5 この発見は，拙著『「快樂の園」を読む ヒエロニムス・ボスの図像学』講談社学術文庫，2017年，「あとがき」参照。
- 6 拙稿「アダムのリング：男性の喉仏の絵画表現をめぐって」倉敷芸術科学大学紀要19，2014年，pp.3-14.
- 7 巨大なイチゴにかじりつく男の表情には喜びはない。虚ろな目は正面に向けたいくつかの先例とは対照的だ。ここでボスは「歯」をしっかりと描きこんでいる。ルネサンス期の絵画ではほとんど歯が描きこまれることはない。バロック期になればカラヴァッジョやフランス・ハルスをはじめむき出しの歯が登場するが，その意味ではボスはバロックの先駆けをなすともいえる。「快樂の園」に点在する歯の描きこみをあげておく。



- 8 拙稿「黒のシンボリズム (2)：ヒエロニムス・ボスとシバの女王」倉敷芸術科学大学紀要24，2019年3月。
- 9 Shiva Nataraja Musée Guimet 25971.jpg. 拙著『ヒエロニムス・ボス：奇想と驚異の図像学』勁草書房，2019年，p.521.

Hieronymus Bosch and the game of gaze — Deciphering of geometric symbolism —

Masaaki KAMBARA

College of the Arts,

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2019)

Hieronymus Bosch's *Garden of the Earthly Pleasure* is an oil painting in the form of an altarpiece that was produced in the Netherlands around 1500, and is now in the Prado Museum in Spain. The central panel is unique and mysterious, and various interpretations have been proposed. It looks like an oriental mandala and conveys the mystery of mysterious religion. The panoramic view has lost its center. However, a certain order is hidden in a world that seems chaotic at first glance. The number of nude women in the pond in the center of the center panel is composed of 12, 7, and 4 figures related to astrology. Not only the symbolic rhythm of numbers but also the symbolic rhythm of characters is hidden. In the central panel, there are two men who trace the Y-letter. When the two Y-shaped centers are connected by a straight line and extended, they hit the mark of the hell knife. If you extend the two Y-shaped centers connected by a straight line, you will hit the mark on the hell knife. The symbol stamped on the knife looks to me like a combination letter of omega (uppercase Ω lowercase ω). If you connect the center point of A in the red tent with the complete egg, which is the center of composition, you will find a crack in the broken egg on that extension. The straight line connecting the marks of the two knives in hell passes through the left eye of "Tree Man". When passing through his left and right eyes and connecting both eyes of the owl in the center disk of the left wing panel, many important icons are hidden on the straight line. In addition, various gaze games can be found through detailed observation.